

福田康夫日本国政府代表ステートメント

（「世界人道サミット」首脳級会合）

議長、

今日の、未曾有の人道危機を目の当たりにするとき、ここイスタンブールに集まった、われわれ各国の指導者が国連を中心に、自ら動き、人類の未来への責任を果たさんとするほかに、解決の道はないと確信します。

日本は、「世界人道サミット」の直後、26日から2日間、G7伊勢志摩サミットを主催し、中東の難民問題を含む人道危機についても意見を交わします。この会議の内容がG7サミットに反映されることを確信しています。

日本は、人道危機の根本原因に思いを致した具体的な貢献策を、この機会に固めました。

一例を挙げれば、中東・北アフリカにおいて寛容で安定した社会を取り戻すことを願い、難民の方々への人道支援、2万人の人材育成、医療、保健、教育支援など、本年からの3年間で、60億ドルの支援を行ってまいります。

この支援は、「だれ一人、取り残すことなく」行っていくための、日本国民からの連帯の証であり、日本が長年訴えてきた「人間の安全保障」という方針の実行です。

日本にとって、遠く離れた中東・北アフリカにおける災厄であっても、同じ人類同胞として、我が事と考えます。それは、様々な問題が今もなお北東アジアにおいても存在するからです。しかし、我が国は紛争を引き起こしません。平和国家としての歩みを続け、国際協調主義に基づく積極的平和主義を実践していく。世界の平和と発展のために全力で取り組みます。